

令和 6 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	39	学 校 名	静岡県立静岡農業高等学校	校 長 名	望 月 康 弘
------	----	-------	--------------	-------	---------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
1	豊かな人間性を育む教育と安全・安心な教育活動の推進	- 生徒会と P T A 安全委員が合同で行う街頭指導の実施。 - 千代田消防署と連携した防災訓練の実施。 - 地域防災訓練参加率 80% 以上。	- 春・夏・秋・年末の交通安全週間に合わせた街頭指導が行われ、のべ 11 名の P T A 安全委員に参加頂き、本校周辺で挨拶及び交通安全を呼び掛けた。 2 回防災訓練を行った。例年 2 回目の訓練では静岡市千代田消防署の協力で訓練を行っていたが、本年度も日程が合わず実施できなかった。 - 地域防災訓練は、積極的に生徒の参加を求める町内と、一部の役員だけで行う町内と差が大きく、参加率は悪いが、生徒の意識が低いわけではない。	総務 B	- 街頭指導に参加した保護者から、流通通りの交通量の多さと、人・自転車・バイク・車が混在する中で、本校生徒のマナーの良さに驚いたとお褒めの言葉をいただいた。しかし、遅刻ギリギリで登校する生徒に対する心配の声があった。生活習慣の改善に向けての呼びかけが必要。 - 静岡市千代田消防署と行う訓練の内容を、再考しなければいけない。避難所開設ゲームなどを使い、生徒に防災について考えさせたい。 - 来年度以降も、状況を見て判断させる。学校としてもフォローを考える。
		- 定期的な登校指導、挨拶運動の実施。 - 身だしなみ検査初回合格率の全校平均 85% 以上。	- 登校指導を年間 24 回、挨拶運動を 6 回と計画通りに実施できた。 - 身だしなみ検査初回合格率は、現在まで 90.4% で、目標数値を達成できた	生徒 A	学年による格差は多少あるが、合格率は昨年同様、高かった。しかしながら頭髮に関しては個人的に指導が難しい生徒もできてきている。今後検査の在り方を検討する時期に来ているのかもしれない。
		- 年間貸し出し数を全校で 2500 冊、一人当たり 4 冊以上。 - 全校生徒対象の芸術鑑賞教室を 9 月に実施する。	- 全校の貸し出し冊数は、1/17 時点で、既に 2,450 冊となっている。3 月末には一人当たり 4 冊以上を達成する見込みである。 9 月 6 日全校生徒を対象に芸術鑑賞教室を実施し、琉球伝統歌舞「琉神」による演奏・舞踊を鑑賞した。体験コーナーも含め生徒から好評を得た。	図書 A	- 貸し出し冊数の目標は、達成することが出来た。引き続き図書館利用が増えるよう、快適な環境作りや新たな活用方法を考えていきたい。 - 目の前で生の歌舞・演奏や演劇を鑑賞できる芸術鑑賞教室は、演者の熱量をダイレクトに受け、感動を得られる貴重な場となっている。豊かな感性を育む機会として来年度以降も実施していきたい。
		朝食摂取率年間平均 97% 以上を目指す。	朝食摂取率調査を 2 回（1，2 学期）全校で実施した。その結果は 6 月が 95.7%、10 月は 96.2% であった。	保健 B	1，2 学期ともに事前から朝食摂取の意識付けのため生徒やクラス担任への呼びかけを行った。目標の 97% には届かなかったがそれに迫る数値となった。3 年生の不摂取が目立ち今後の課題である。朝食を摂取しない生徒の個別指導や生活習慣等も指導していきたい。
		- 学校生活を含め不安を感じている新入生に対して、安心して高校生活を送れるように早めに対策を講じる。必要に応じてスクールカウンセラーとのカウンセリングを実施する。 - 体調面から心身の状態を把握し必要な生徒には早めに面談等を実施し見守る。 - 相談したい時にいつでも相談できる体制を整える。	- 新入生全員に対する 1 分間カウンセリングの実施。 - シグマテストの実施（1 年生） - スクールカウンセラーとの連携	教育相談 A	5 月末に 1 年生に 1 分間カウンセリングを施した。（おおよそを含めて）90% の生徒が学校生活に満足していると回答した。気になる生徒については担任教諭から改めて話を聞いていただき、教員間で情報を共有し見守っている。
		関係法規を遵守し、安全点検を日常的及び定期的に（年 5 回）実施する。	- 全学年の生徒に対して学校生活に関するアンケートの実施。（1 学期） - 相談室の常時開放。		- 全校生徒にアンケートを実施した。現在のところ、87% の生徒が学校生活に満足している（どちらかといえばも含めて）と回答している。 - 体調面に関しては、酷暑のせいか約 3 割の生徒が頭痛、睡眠不足などの体調不良を訴えている。面談希望の生徒には担任教諭から話を聞いていただいた。今後も継続して見守りを実施していく。 - 生徒自ら相談室に訪問することは極めて少ない。各担任教諭の手厚い見守りのおかげである。
		関係法規を遵守し、安全点検を日常的及び定期的に（年 5 回）実施する。	- 中間、期末テスト期間に定期点検を行った（年 5 回）。関係法規に基づき安全点検表を整備した。8 月に HACCP（食品安全）講習会を実施した。 - 重大事故発生なし。	農業 A	- 点検項目を明確にし、記録（可視化）することができた。落下物の排除や棚固定の確認を目視で行い、日常的に安全・安心な教育環境の維持を行っている。 - 改善項目が可視化され、現状把握や修繕・更

様式第 3 号

					新申請につなげることができるようになったが、施設・設備の老朽化にともなう不備は長期的な取組みが必要となる。
2	生徒の学ぶ意欲を高め、論理的、科学的思考力の育成と特色ある教育活動の展開	- 漢字、計算力、英単語テストの計画的な実施。 - 平成 30 年告示の学習指導要領への対応。 - 授業参観週間において、B Y O Dを含む I C Tを活用した授業を公開する。 - 年間の研修テーマとして「授業改善のための I C T研修」を継続し、県教育センターと連携して、教員の応用力向上のための研修を実施する。 - 各種発表、競技会県大会において複数の入賞。 - 農業鑑定競技会全国大会において入賞 4 件以上。	- 計算力テスト、英単語テストを予定どおり実施した。漢字テストは、業務の見直しにより年間 6 回実施した。 - 平成 30 年告示の学習指導要領について、シラバスや年間指導計画の作成支援と取りまとめを行い、県の指導を受けつつ対応を行った。 - 授業参観週間において、I C Tを活用した授業を行い積極的に公開した。(6 月) 8 月に Classroom による Meet や GoogoleChat の活用法と実践、ChatGPT の有用性とその弊害を職員全体研修で行った。9 月の定期訪問では、「授業改善のための I C T研修」の研修を行い、4 名の教諭の具体例を通して、I C T活用についての理解をさらに深めた。 - 授業参観週間において、さらに I C Tを活用した授業を行った。(10 月) 【県大会】意見発表：最優秀 2 人・優秀 1 人（出場者全員入賞）、平板測量競技会：最優秀 【関東大会】意見発表：優秀 2 人 【全国大会】10 月岩手大会 農業鑑定競技 6 人入賞（優秀賞）	教務 B 教科 B 教務 A 研修情報 A 農業 A	- 計算力テスト、英単語テストを予定どおり実施した。他のテストより漢字テストのみ回数が多いことは、以前より懸案としてされおり、今回業務の見直しを行った。 - 学習指導要領に関する対応は良好だった。来年度教育課程について、クラス減及び教員定数減への対応として総合選択科目を見直した。総合選択の在り方については、来年度も継続して検討する。 - 授業やHR活動で I C T活用が確実に定着してきている。今後も I C Tを効果的かつ有効に活用する授業を推し進めていきたい。 - 今年度からB Y O Dが全学年で本格的にスタートした。Classroom の作成・配信・確認や、外部のW e b アプリの活用など着実に前進している。運営、管理体制等の整備も少しずつ解決している。Classroom の活用法を中心とした I C T活用の理解を深め、授業改善へと活かしていく研修を行うことができた。生徒、教員ともデバイスを全員持っているので、積極的・意欲的な活用を今後も継続的に考えていきたい。 - 意見発表では、生産系では昨年に続き関東大会に複数名参加した。環境系では平板測量競技会 2 年連続最優秀を取得し、知識・技術の高さを示した。代表者選考まで校内指導体制が確立されており、充実した指導が行われている。 - 農業鑑定競技会では、新しい区分に対応することができた。農業電子図書館を導入した成果が出ている。 - プロジェクト発表校内大会では地域連携・課題解決型の研究発表が増加した。今後、更に発展・充実させたい。
3	キャリア教育の充実と生徒一人ひとりの進路実現	- 就職、進学決定率 98%以上。 1、2 年キャリア講演会、進路ガイダンス、3 年生就労に関する講話等の実施。 「アグリマイスター顕彰制度」への申請を年 20 件以上すすめる。 - 日本農業技術検定 2 級合格 10 名以上。	1 月中旬において就職、進学決定率 97%。就職内定者 94 名（一般企業 88 名、公務員 6 名）進学者 111 名（四年制 42 名、短期大学 17 名、専門学校等 52 名） - キャリ講演会、進路ガイダンス、就労に関する講話等は、計画通りに実施することができた。 - アグリマイスター17 名認定（前期）シルバー 4 名（後期）プラチナ 1 名、ゴールド 3 名、シルバー 9 名 - 農業技術検定 2 級 15 名合格（第 1 回：7 月）2 級 8 名、3 級 113 名（第 2 回：12 月）2 級 7 名、3 級 27 名	進路 A 農業 B	- 目標の 98%はほぼ達成可能な状況となっている。面接指導、小論文指導、進学補講等、全職員による指導体制が成果に結びついている。 - Handy 求人管理システムの導入により、生徒個々の端末で時や場所を選ばず求人情報が検索できるようになった。 - Google Classroom での進路情報の伝達や、就職用履歴書の P Cでの作成などにより、就職指導が円滑に行われた。 - F F J 検定中級を新設した成果もあり、前年比 10 人増加したが目標には届いていない。 - 制度に準じた資格取得、学習活動の機会を増やし、生徒への周知を強化する必要がある。 - 農業技術検定は全学系指導が充実し、合格率は全国を上回っている（7 月実施：3 級校内 83%/全国 67%、2 級校内 73%/全国 24%）。 3 級受験を 2 年生で実施しているため、2 級受験増加に向けた継続指導が難しい。

